

14 明治5年6月19日 菊池長閑宛

第六号

第三号相逢拝披仕候愈御無異之由何寄之御事ニ候私不相替勤勉
罷在候間御安眠奉希候此度参事ハ熟々之説論活計之御目途養蚕
と御立被遊候趣成程私モ兼而ハ御同様見込居候仰之通田地モ御
座候得ハ是ハ余備ニシテ蚕ヲ養候ハ、至極御宜可有之候概ね損
しの出来候ハ世話行届さるニ因者と愚考仕候其故ハ少々養候家
ニハ決して損之有之を不聞是ハ則一証ニも可有之也川村氏ハ
拾兩無相違相逢前書申上候通此頃意外之入費ニテ七月迄之月
俸収置候一円弍朱も健ニ御請取申上候能添心致玖平ニ養蚕書并
凶解ニ編下し上へく存居候下斗米へ之御状も早速大坂へ差送可
申候此度証人父兄叔父友人之外不相成ニ付藤村を叔父ニ頼候那
珂ニても先達貫属ニ相成候横田へハ返事差出兼候間月給客之御
祝宜御願申上候私之名も来月頃ハ実名を唱可申と存居候開化之
一助とも可相成間蒸気車ニて横浜迄参度存居候世上も至極御壮
健ニ御座候未タ去年の暑ニハ及兼候得共今之割合ニ参候ハ、却
而劇烈ニ可有之と申候右首報迄頓首

(長閑注記1)

六月十九日

(長閑注記2)

御尊父様

香一郎様

御座下

(長閑注記1)

(朱書)

(第六号)

(長閑注記2)

〔朱書〕七月廿一日七半時玖平ハ達之右返書
此方第九号八月朔日認翌二日立大川
重吉へ横田を以頼之